

ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書 (2023年7月分)

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

今月は、授業も終わり、課外活動に力を入れることができました。特に先月半ばから始まったバリ芸術祭の期間は、7月の半ばまでと開催期間が長いため、引き続き鑑賞のために会場に足しげく通いました。また芸術祭終了と同時に、同じ会場で現代芸術祭が始まり、こちらにもよく鑑賞に訪れました。その他には舞踊やガムランの稽古を受けたり、地域の年中行事に参加したりと、充実した一か月を過ごすことができました。

◎バリ現代芸術祭

7月半ばから始まったこの現代芸術祭は、フェスティバル・バリ・ジャニと呼ばれており、ジャニ jani は、バリ語で今、現在、という意味を持ちます。バリ・ジャニは今回で5回目と、45回も続くバリ芸術祭と比べたらまだまだ歴史は浅いですが、名前のとおり新しいバリや新しい物事を強く押し出していこう、という意図を感じるイベントでした。しかしバリ芸術祭ほどの人気や知名度はなく、同じ会場で行われるにもかかわらず、その雰囲気は全く違いました。開演の1~2時間前には場所取りをしに行っていた芸術祭とは打って変わり、開演後も空席が目立つ舞台が多かったです。しかしプログラムには、誰もが知る昔の話を現代風に創作したものや、光や水を放つ舞台装置を利用したものなど、新しい舞台の在り方として興味深いものが多かったです。まだ歴史が浅いイベントということもありますが、この状態からどのように多くの人々に浸透してゆくか、今後に期待したいイベントです(写真①、②)。

◎地域の集会所の周年祭

210日毎に行われる地域の集会所の周年祭に参加しました。前回は昨年12月に行われ、余興として踊りを披露する機会をいただきましたが、今回は、周年祭時の儀礼に欠かすことのできない奉納舞踊を、地域の婦人会のみなさんと一緒に踊らせていただきました。

今回は、私が参加した婦人会の踊りと、子どもたちによる踊りの2曲が奉納されました。また、「自分が踊るだけでなく、踊りに関わる行事の進行の勉強もしなさい。」という踊りの先生の助言により、周年祭前の婦人会の舞踊練習に加え、子どもたちの練習の手伝いや、本番時の化粧、衣装の着付け等にも関わることになりました。バリでは、踊り手などの演じ手側とそれを支える側(衣装準備、化粧、行事進行など)の役割が明確に分かれています。私はここでは支える役を務めることはほとんどありませんが、行事の流れや役割を知り、体験するということとても良い機会をいただくことができました(写真③、④、⑤)。



↑①開演前のステージ



↑②ブルーライトを使用したの創作演目



↑③婦人会による奉納舞踊



↑④子どもたちによる奉納舞踊

この2曲は、祭礼の進行に欠かすことができない神聖な奉納舞踊です



↑⑤同じ舞踊教室に通う子供と